

シンガポール日本人学校中学部における現地理解教育とその実践

前シンガポール日本人学校中学部ウェストコースト校 教諭

広島大学附属福山中・高等学校 教諭 見 島 泰 司

キーワード シンガポール、グローバルコンピテンシーの育成、現地理解教育、社会科教育

赴任校の概要（2025年3月末現在）

シンガポール日本人学校中学部ウェストコースト校

The Japanese School Singapore Secondary School

URL : <https://www.sjs.edu.sg/secondary-school/>

1 はじめに

東京学芸大学先端教育人材育成推進機構国際教育グループの共同研究員として、2022年4月にシンガポール日本人学校中学部（以下、中学部）へ派遣され、3年間の任期を全うした。1年次は中学1年生の学級担任として、2年次は校務主任と研究主任、3年次は教務主任として、生徒の学習指導や人間的成長を育む指導を担ってきた。13年間勤務してきた広島大学附属福山中・高等学校で経験した教育研究や教育実習指導を生かし、生徒への教科指導はもとより、教員経験年数の短い先生方への指導に尽力した。

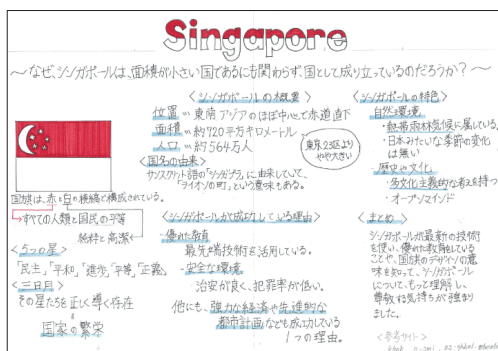
私自身が「グローバルコンピテンシーの育成」をテーマに研究を続けてきたこともあり、中学部においてもこの研究実践を継続した。21世紀に不可欠な力として重視されるグローバルコンピテンシーを育成するために、知識・理解の面で必要なことは「異文化理解」や「歴史的背景」を把握することであり、中学部では「現地理解教育」の開発・実践に力を入れた。その教育実践を報告する。

2 授業における現地理解教育実践

私は、社会科の教員であり、中学部でも地理・歴史・公民の授業を3年間担当した。日本の学習指導要領に沿った内容を扱いながらも、時に現地シンガポールの内容を織り交ぜながら、授業をおこなった。1部ではあるが、その内容を紹介する。

(1) 1年生地理的分野「ミニステート調べなぜ、小さい国なのに、経済が成り立っているのか？」

夏休みの宿題として「ミニステート調べ」を1年生に課した。生徒が調べ、まとめたレポートを下に示した。



生徒のレポート①『シンガポール』



生徒のレポート②『ツバル』

レポートには、1) 国名、2) 国名の由来、3) 国旗と国旗の由来、4) 国の概要、5) 国の特色、6) なぜ小さい国なのに経済が成り立っているのか、7) まとめ・感想、を書くように指示している。先に挙げたレポートのように、どの生徒もしっかりと調査をおこない、オリジナリティあるレイアウトでレポートを作成していた。夏休み明けの授業を利用して、発表をおこなった。

日本は世界有数の経済大国である一方、シンガポールは面積が狭い方から20位程度の国、しかしながら経済水準は非常に高い、その理由について探究した。生徒のレポートには「昔からの中継貿易港としての役割に加え、教育立国をめざし英語を公用語としたことで、世界中の人々と仕事ができるようにしてきた」「外国の企業を誘致するため、税金を安くしたり、南東部に輸出加工区を設けたり、アジアの拠点として多国籍企業が集まるようになった」「Fine (=きれいな、罰金) Cityと呼ばれるように法律をしっかりと守る国にして、安心して投資できる国にした」などと書かれていた。シンガポールと同程度または面積が狭いミニステートを取り上げ、比較研究をおこなったところ、ミニステートの多くは、外国からの援助や出稼ぎ労働者による海外からの送金で成り立っており、実質、自国だけでは経済が成り立たない国も見られた。シンガポールのような、ミニステートにもかかわらず経済発展をとげた国の事例は、非常にまれであることが分かった。

この授業実践では、ミニステートの現在の経済状況を知るために、政治的・経済的・歴史的な背景を読み解く必要があり、多角的な分析をおこなうことができた。また、同じような国家を調べ多面的に比較することで、シンガポールの地理を深く理解することができた。

(2) 選択授業「博物館・美術館学」—なぜ、そこに博物館・美術館がつくられたのか?—

中学部では、週に1時間、選択の授業を設定していた。担当となる教員がそれぞれの専門性を生かして、講座を開設し授業をおこなっている。私は、「博物館・美術館学」という講座を開設した。この講座は、絵画や美術品などの展示物について調べるといった美術科寄りの内容を扱うのではなく、そこに収蔵されている展示物が集められた理由や、その場所に博物館・美術館が建設された背景などを事前に調べて発表をおこない、実際にいくつかの博物館・美術館を訪問するフィールドワークを実施することを目的とした。

生徒たちが事前に調べたシンガポールの博物館・美術館のまとめの一部を、以下に示した。(数字は、それぞれ：①特色、②内容、③立地場所、④立地の理由・背景、を記している)

●ナショナル・ギャラリー・シンガポール

- ①東南アジア最大級の美術館。旧最高裁判所と市庁舎を改装した建物を利用。
- ②シンガポールや東南アジアの近現代美術(19世紀～現代)を中心に展示。歴史的背景とアートの関わりが学べる。
- ③シティホール(旧市庁舎)と旧最高裁判所を改装して使用。シビック・ディストリクト(政府機関・文化施設が集まる中心地)。
- ④・植民地時代からの歴史的建築物を保存・活用する目的。
 - ・国家の司法・行政の中心であった場所を、「文化・芸術の中心」に転換する象徴的意味。

●シンガポール国立博物館(NMS=National Museum of Singapore)

- ①シンガポール最古の博物館で、国家の歴史を総合的に紹介。
- ②植民地時代、日本占領期、独立などをマルチメディア展示で体感的に学べる。学校教育や観光でも定番。
- ③1887年建設の歴史的建築物(旧ライブラリー&博物館)。シティ中心のブラス・バサー地区。
- ④・植民地時代から「知の拠点」として建てられた建物を継承。
 - ・国民が自国の歴史を学ぶ場を、都市の中核に置くことでシンボル性を高めた。

●アジア文明博物館 (ACM=Asian Civilisations Museum)

- ①シンガポールの多文化社会のルーツをたどる博物館。
- ②中国、インド、イスラム世界、東南アジアなど、アジア全域の美術品や工芸品を展示。交易や宗教交流の歴史がわかる。
- ③シンガポール川沿いの「エンプレス・プレイス・ビルディング (旧政庁)」。ラッフルズ上陸地点の近く。
- ④・シンガポール川は交易の中心であり、多文化社会が始まった象徴的場所。
 - ・アジア諸地域からの文化交流を扱う博物館にふさわしい立地。

●アートサイエンス・ミュージアム (Art Science Museum)

- ①マリナ・ベイ・サンズの蓮の花のような建物で有名。アートと科学を融合した展示を行う。
- ②チームラボの常設展や、国際的な特別展を開催。子どもから大人まで楽しめる体験型展示が多い。
- ③マリナ・ベイ・サンズの敷地内 (埋め立てによる新開発エリア)。
- ④・21世紀のシンガポールの「未来志向・国際都市」を象徴する場所。
 - ・観光とエンターテインメントの中心に置くことで、世界的な集客力を狙った。

訪問は、私が引率したシンガポール国立博物館と、日本語ガイドをお願いできたアジア文明博物館の2か所でおこなった。事前学習をおこなっていたからか、生徒たちからガイドさんへ多くの質問を投げかけていたのが印象的であった。また、それぞれの展示物の関係性を見出そうとしていた様子も見受けられた。

博物館・美術館の展示品を知ることはもちろん、その立地の理由を考察し、実際に現地でフィールドワークをおこない、事前に調べた内容を批判的に見ることに取り組んだことで、生徒のクリティカルシンキングを育成することができた。

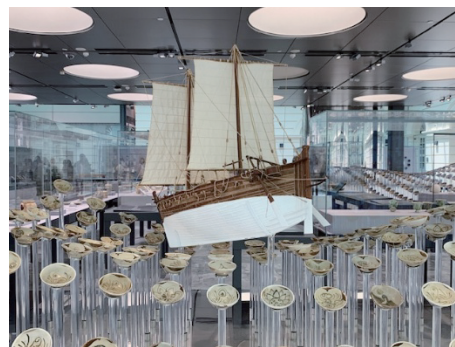


写真 アジア文明博物館の展示物

3 文集『椰子』による現地理解教育の実践

シンガポール日本人学校では、2校ある小学部 (クレメンティ校・チャンギ校)、中学部ともに文集を作成している。文集は、小学部では『やし』、中学部では『椰子』と名前が付けられている。年間多くの生徒が編入学、退学をする日本人学校、中学部では昨年度は1年間に合計200人ほどの編入・退学があった。そうした生徒たちが「この学校に存在していた」という証に、文集が役に立っている。ゆえに、生徒たちは『椰子』を大事にし、何度も繰り返し読むと聞いている。実際、私の息子たちも、表紙が擦り切れるほど、ページが破れるほどに、小学部クレメンティ校の『やし』をくまなく読み込んでいた。

私は、全校生徒に現地理解教育を実践できる良い機会と捉え、文集の原稿を、シンガポールの地理を読み解く内容にすることで、地理的な見方・考え方を身に付けさせ、生徒の現地理解・異文化理解を高めようと考えた。以下、私が3年間連続して執筆した「統計資料から、シンガポールの地理を読み解く」シリーズ (3回) である。



中学部発行の文集『椰子』

「統計資料から、シンガポールの地理を読み解く」

私は20年近く、地理の教師として教壇に立ってきました。地理の授業で愛用してきたのが、二宮書店から発行されている『データブック オブ・ザ・ワールド』という統計資料です。『データブック』の「シンガポール」の項目に記載された統計資料を解説しながら、シンガポールに住んでみて感じたことを綴っていききたいと思います。

【気候】年平均気温27.6℃ 年降水量2,199.0mm

一年間通して気温が高い熱帯雨林気候ですが、夜でも30℃を超える日本の夏の暑さに比べると、いくぶん涼しいような気がします。大きな木が太陽の光をさえぎり、道路を歩いていてとても気持ちよいです。高温で雨の多い場所では、背の高い熱帯林が繁るからです。

【年齢別人口構成(2017年)】年少12.8% 生産77.6% 老年9.6%

老年人口率が7%を超えると高齢化社会、14%を超えると高齢社会と呼ばれます。働き盛りの年齢層の人口が多いため、この国の経済が発展しているということが窺えます。駅やショッピングモールでの人々の往来に活気があり、エネルギーを感じて元気になります。

【民族(2017年)】中国系74.1% マレー系13.4% インド系9.2%

多民族国家であり、各民族の言語が公用語になっています。また、旧宗主国であったイギリスの影響で英語も公用語です。複数の言語を公用語にする多文化社会が形成されているからか、英語が拙い私にも、人々が心優しく対応してくれて、温かい気持ちになれます。9年ぶりに訪れたこの地で、統計資料では分からないことを五感で感じたのです。
(2022年度『椰子』より)

昨年の「椰子」55号では、シンガポールの気候・人口構成・民族構成に関する統計資料をもとに、そのデータから読み取れること、現地で生活してみないと分からないことを述べてみました。今年もまた別の統計から、シンガポールの地理を読み解いてみます。

【農牧業(2018年)】ココナッツ130t キャベツ629t 豚27万 頭鶏350万羽

シンガポールは開発が進み、農地がなかなか見当たらないですが、従事者2000人が野菜や果物を栽培しています。どこに農地があるんでしょう、探してみたいです。豚や鶏はそこそこ飼育していて、ホーカーセンターで食べられるチキンライスやバクテーの肉は、もしかしたら地元産かもしれません。

【工業(2018年)】ビール1.3億リットル 綿織物13万t(世界9位) 紙と板紙8.7万t 合成ゴム26万t(世界10位)】

学校から西に広がるジュロン工業地域は、外国企業の誘致を進めてきたこともあり、埋立地にたくさんの工場が並んでいます。シンガポールは昔から中継貿易が盛んで、船が立ち寄りやすいという利点を生かして工業が発展しました。シンガポール海峡を眺めるとたくさんの船が通っています。

【日本の対シンガポール貿易輸入(2018年)】医薬品19.8% 電気機器16.1% 一般機器15.9% 科学光学機器7.9%

ASEANの中心でありアジアNIEsの一角でもあるシンガポール、先端技術を用いた工業製品を日本に送っていることが分かります。日本企業の看板をあちこちで見かけるのも頷けます。
(2023年度『椰子』より)

好評の「統計資料から、シンガポールを読み解く」シリーズも3回目を迎えました。外出しない休日、Google Earthと「データブック オブ・ザ・ワールド」があれば1日楽しめる私は、日本から最新版の「データブック」を取り寄せました。第3回は、2018年版と2024年版を比較することで見てくるシンガポールの地理を解説していきます。

【面積2018年版：719km² 2024年版：729km²】

6年間で面積が10km²広がっています。どの場所で拡大したのだろうと、シンガポール島をGoogle Earthのタイムラプス機能で見てみると、ジュロン島の西にある埋立地の半島が伸びていました。発展を続けるこの国の経済活動により、あたかもアメーバのように陸地が広がっています。

【人口2018年版：570.8万人 2024年版：594.1万人】

6年間で約23.3万人が増加しています。時間帯によっては、バスが満員、MRTが満員、レストランに長いキュー……。今年初めて見に行ったナショナルデーの花火は、身動きできないほどの混雑でした。人口密度8,194人/km²を肌で感じることができました。少子高齢化が進んでいるので、人口増加の要因は自然増加というよりも、社会増加（海外からの移住）であると言えます。

【1人当たり国民総所得2018年版：52,090ドル 2024年版：63,000ドル】

わずか6年で約10,000ドルも増えているではないですか！吃驚仰天です。ちなみに日本は43,450ドルと、シンガポールを下回っています。景気停滞する日本を救えるのは、グローバル社会、多文化社会の中で鍛えられた、ジャパ中に通う生徒のみなさんだと、私は確信しています。（2024年度『椰子』より）

在外教育施設に派遣された先生方が同じことを考えただろうが、書籍やインターネットで知り得た情報以上に、自分の五感で実際に現地を感じることは大事だということである。海外にいる生徒・児童たちは、日本で過ごす以上にこうした経験ができることが本当に貴重であり、そのような現地理解や異文化体験ができるきっかけを私たち教員がつくり出していくこと、これから在外教育施設に赴任される先生方の参考になれば嬉しく思う。

4 おわりに

私が実践をおこなった現地理解教育の一部しか紹介ができなかったが、生徒のグローバルコンピテンシーの育成に寄与できたのであれば、シンガポール日本人学校中学部に派遣された私の使命を果たせたのではないかと思う。私のシンガポールでの3年間を一緒に過ごした先生方・生徒たち、お世話になった方々に感謝したい。